

水澤だより



水澤だよりの看板だけを、かれがれ大きく掲げておきながら、その後ふつつき音沙汰が絶えてしまつた。申すのは餘の儀ではない。筆者自らその價値に疑を抱いたからである。天界の貴重な一頁をふさぐに足らない記事だと思つた。くだらない文を書いたものだ。とあざ笑ふ讀者も多からうと思つた。だから筆が進まう筈がない。所が二三日前のこゝ、山本先生に「水澤だよりの怠慢ぶりは何てふ事だ、ひさ月のうちに三十分だけは書く暇もあらうのに……」と、側に居たら眼の玉が飛び出したにちがひない程の権幕で叱られた。幸それは奉天からのお手紙で、はるばるやつて來た御叱責だつたので命だけは助かつたが、あの鹽梅ではこの後の程も案じられる。で、恐る恐るまた書き始めることにした。こゝへ書く事が何の役にも立たない場合は、それは山本先生の責任、役に立つた場合は筆者の手柄である事は申すまでもない。

さて、人氣者のウケンネツケは水澤にも現れた。推算の位置さはずこし離れてゐたが、二十日の夜空を仰いだ時、そのおぼろ氣な姿を肉眼で認め得た。何しろ東京あたりの新聞が、あの通り矢面に騒ぎたてたものだから、奥洲のはての人達までがだまつては居ない。『おらに見せてける』といつて顔にせがむ。晝の外出さへおぼつかない御隠居さんでさへ、今生の思ひ出に、そのウケンネツケをやら

いふ物を、一つ遠眼鏡でのぞかせて戴きに、觀測所までまかり出やうといふ勢であつた。北斗七星の附近にあると書いた古い新聞の記事を忘れずに、毎夜大熊の尻尾のあたりばかりを物色してゐた熱心家もあつたさうだ。そんないぢらしい話をきくと、觀測所を一夜公開して、心ゆくばかり彗星をながめさせたかつたが困つたことにはこちら、緯度觀測所である、晴れた夜は本職の緯度の方が急がしいし、晴れた夜でなければ彗星は出ないし、まるで昔の紺屋さんが晴天十日の大相撲を見かねた様なものだつた。それでも毎夜二十人近くのお客があつた、赤ん坊をおんぶした裏店のお神や、肴屋のアニイ達が、ま夜中近くまで構内をうるついてゐた。所員のうちでも池田技師を大將に、石川、千葉、佐藤、岩淵の諸君が流星の觀測をした。山崎技師は自分の望遠鏡でいゝ寫眞を撮つた、惜しい事には月末はさかく曇り勝であつた。

月ががはつて四日の午後、京都の中村氏が、これも彗星の様にしてひよいと水澤へやつて來た。北海道からの歸りださうな。

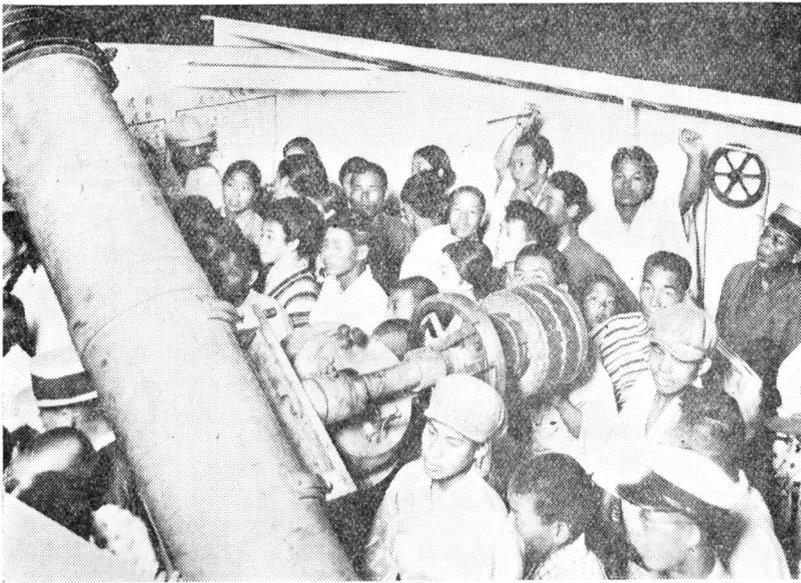
今日まで、八寸七分の川崎技師を、すい分大きすぎる男だと思つて、よそながら常々氣にやんでゐる我々であつたが、九寸五分の中村氏にはすつかり膽を消した。長いばかりでなく太いだから驚く。上には上があるものだ。そればかりでなく中村氏は、天下にかけがへのない人物といふわけで、最近兵役の義務をさへ免除されたといふ噂、さう思つても一度ながめたら、荒木總長のにも劣るまじい大頭や、十二文半の甲高の足袋におさまりかれるといふ足が一段と大きく見えた。

中村氏と山崎技師さへ人も知る様に、反射鏡の製作に特に造詣が深い、有益な話の交換のあつたことは申すまでもない事である。我々門外漢も中村氏の携帯用の鏡にはまつたく心をひかれた。三時半といふ手頃の大ききで、然も優秀な能力を持つてゐる事がすくなくらず所有慾をそゝつた。この夏休みに、みんなで汗を流して、一つづつ造らうぢやないかといふ相談がある。うまく出來たら次の水澤だよりは物騒だ。どんな自慢話が出て來るかかわからない。(七月十二日X生)一

日本で一番多数の人々に井ンネケ星を見せた

倉敷天文臺

去る6月27日の夜彗星接近の記念観測會を催ふし、600人の大衆が遠近から押しよせ深更に至るまで此の32センチ反射鏡を包圍して離れなかつた。



ステアンス君から

本年度第四彗星の発見者ステアンス氏へ山本教授から送られた御祝ひのほがきに對し、下の如き便りか同氏から届いた。裏にはミドルタウン大學天文臺の美しい寫眞が印刷されたエハガキである。

Middletown, Conn.
June 24, 1927

Dear Friend,

Thank you for your card. I was glad that you are observing Comet 1927d.

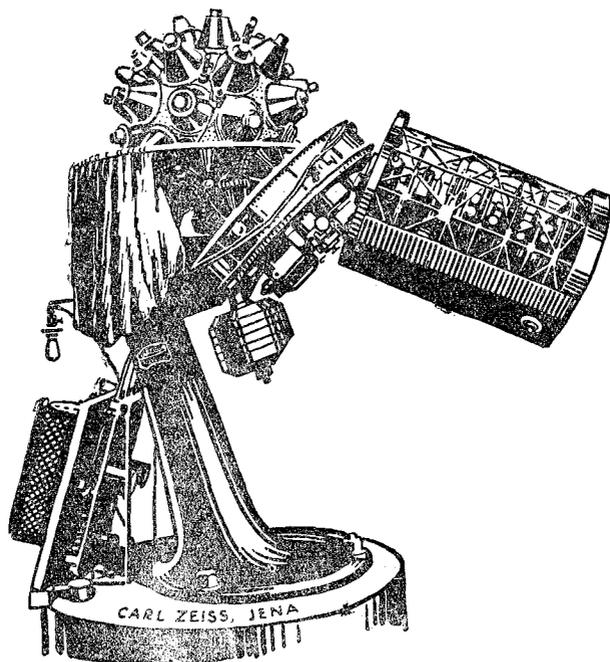
With kind regards,

C. L. Stearns.(署名)

噫、G. カルプー!!

優れた反射鏡面の製作者として、其の名全世界に高かつたツヨジ・カルプー氏は去る7月4日朝、英國 Walpole の宅に於いて逝去した。謹んで弔意を表す。氏は1834年の生れで、本年7月22日は其の第93回の誕辰に當る筈であつた。吾等は次號に氏の小傳を載せる。——

ツアイスの星辰儀



雑誌天界愛讀者諸君は以前に同誌上に有名な獨逸エーナ市カールツアイス社の光學工場が、ミューンヘン市の獨逸博物館の爲めに製作した世界の新驚異物に關し掲載された事があるので大體の概念を得られた事と思ふが、此器械は其後陸續獨逸諸所の11大都市を始め又他の諸國に於いても（最近の報道に依れば紐育市も右器械購入する由）製産さるゝに到つた。抑も此器械は投寫機組織に工作されて居るので、

『投寫星辰儀』

こ命名された所以であるが此器械に依りて天體の運動（太陽、月、遊星、恒星）を圓天井内側に投射し觀察者の肉眼に天空の關係、位置等を示すことが出来る、上に挿入せる圖を見れば右器械に其映寫を手取る様に明かに見ることが出来る。

圖は丁度投寫中の星辰儀を示し、北緯66度の位置を映じ天空には初冬の星座が美しく眺めらる、右手に當つて僅少し南の水平線を離れた月（新月の約四日前）が上つて居る。

星辰儀の機制は遠寫按配に依つて説明者が配電箱から自由に投射し得る仕掛けになつて居る。又自由に手に持つことの出来る指光燈に依り説明者が個々の目的物を指示する爲め圖に示す様な光つた矢を人工天空上に投寫することが出来る。

日本に於いても諸所の大都市に右器械装置さるべく目下交渉中である。